

⑧感電

濡れた軍手と作業服で
溶接ケーブルの補修中、感電

発生状況



アーク溶接機の延長ケーブルのむき出しになっていた破損箇所を補修する際、誤ってケーブル接続部のむき出し部分に濡れた軍手で触れ、感電した

原因

- ✓ キャブタイヤケーブルが破損し、芯線が露出していた
- ✓ 溶接機の電源を切らず、活線状態で補修作業を行った。
- ✓ 不良ケーブルを補修する体制が確立されていたものの、これが徹底されていなかった。



防止対策

- ✓ ケーブルは定期的に点検し、修理は専門職に依頼する
- ✓ 活線状態での補修作業は絶対にしない。電源の遮断を確認
- ✓ 不良ケーブルの取扱いに関する所内の規程を遵守・徹底する

感電防止教育

- ・確実に電源を遮断してから補修作業する
- ・濡手で活線状態の溶接ケーブルを握らない
- ・その他



POINT!

感電災害は死に直結！
活線状態での補修は厳禁！



DATA

発生年月日
2007.08.25

発生場所	作業名・作業内容	死傷病名	職種	雇装職
建造船甲板上	手摺り取付作業	感電	社/協	社員
			年齢	59才
			経年数	3年



- 2m以上の場所
- タンク内での作業
- 構造物等に
触れる場所

